

岡山県立津山東高等学校 令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録〔概要版〕

令和6年7月18日（木）13:00～14:30

津山東高校会議室

○出席者 委員10名（校長含む）中9名が出席

学校側出席者：教頭・各部長・各科長 9名

○決議事項

（1）会長・副会長の選出

会長：長谷川 勝一（美作大学副学長），副会長：門長 儀紘（ラビット代表取締役）

（2）令和6年度学校経営計画及びスクール・ポリシーの承認

○議事

・年間計画および取り組み内容について

〔協議の概要〕

（委員）教育環境部の具体的計画の中で、「気になる生徒については、個別のケース会議を持ち、複数の教員で一人ひとりを大切にする。」とあるが、教員の人数は足りているのか。

（学校）2人担任制をとっており、複数の教員でクラスの生徒を見ている。気になる生徒については、担任＋学年主任、教育相談係でケース会議をもっており、必要に応じてSSWやSCにも相談している。今のところは何とか対応できているが、教員の加配については規定があるため難しい。SCについても相談の予約が埋まっている状況である。

（委員）小・中学校でも人数が足りていない。このような声を学校運営協議会の意見として岡山県教育委員会へ要望できれば良いと思う。

（学校）ありがたい。

（委員）避難訓練について、避難場所や状況等、現状を教えてください。

（学校）現在の安全計画では、避難場所はグラウンドである。状況によっては変更もありうる。6月に実施した避難訓練では、雨天時だったため、第1体育館へ避難した。走ることもなく、黙って避難することができ、目標とする9分からずスムーズに避難完了した。

（委員）避難が必要な状況は様々あると考えられるので、いろいろな想定で訓練をしていけばよいと思う。

（学校）検討していく。

（委員）部活動の地域移行を国が推進しているが、高校ではどうなのか。

（学校）高校は遅れている。部活動は各学校の魅力でもあるため、県も進められていない。合同チームは、野球部・バレーボール部などでなされている。負担軽減としては、週2回は休む、土日のいずれかは休むなど「部活動に係る基本方針」に従って行っている。

（委員）負担はどうか。

（学校）昔に比べれば、活動時間は少なくなっているが、掛け持ちの教員もいる。負担は大きい。生徒の入部率は8割弱で、男子はほぼ100%入部している。女子も半分以上は入部してい

る。教員の業務が増えてきているため、部活動に出られない状況がある。ただ、高校生は指示をしておけば自主活動ができる。

- (委員) 高校統廃合や生徒募集がどこの高校も課題である。津山東高校は希望する生徒が定員数を超えており、よい傾向である。

総合的な探究の時間「行学」に携わっているが、「行学」で身につけていくコミュニケーション能力や課題発見能力などは、「行学」以外にどう結びついているか、身につけている実感はあるか。

- (学校) 発表力や表現力が上がっている実感がある。

数学の授業で、生徒に問題の解説を他の生徒に対して行わせているが、発表や表現が上手になってきている。

英語の時間でも、グループ活動ではすぐに話ができ、スライド作成をさせても早く作ることができる。発信力も優れている。

- (委員) ICTが導入され、先生方の負担は軽減されているのか、増えているのか。

- (学校) ICTを活用しないといけないので、負担は少し増えている。一方で、デジタル採点は好評である。多くの教員が利用しており、4割程度も時間短縮になっている教員もいる。

- (委員) 生徒支援部の現状分析で、「感染症の制限もなくなり、本校生徒が本来持っていた明るく元気な雰囲気が戻りつつある。」とあるが、これは体感なのか、あるいはアンケートを実施しての分析なのか。

- (学校) 生徒の様子を見ていて思う。コロナ禍以前は、球技大会などを行うと体育館が割れるほど歓声が上がり盛り上がっていた。コロナ禍でマスクをつけ黙って過ごすことを強いられてきた生徒たちは、制限なく行事ができるようになった今、スポーツ交流会などを行っても盛り上がりが少ない。楽しんでいないわけではないが、静かにニコニコとしている。「騒いでもいいよ。」と言うと少しずつ声が出せるようになった。

- (委員) 看護科について、国家試験の合格率も高くよい。懸念するのは人材流出が多い。津山圏域で就職する人が少なくなっている。実習を通して、津山圏域で働きたいと思ってもらえるためにどうするか考えてみたいと思っている。この地域で医療を支えていくすばらしさを教育の中でしていただければ、この圏域がうまく回っていくと思うので、一緒に考えていきたい。

- (学校) コロナが5類に移行したので、地域の活動に少しずつ参加している。以前は病院のお祭りなどにも呼んでいただき参加していたが、コロナ禍で中止になったままである。これから地域で活動している生徒を見ていただき、生徒もその活動から得るものがあれば、この地域で勤めていく生徒も増えるのではと思っている。

- (委員) 一度県外に出ると戻ってこない。奨学金などの金銭的な待遇や慣れ親しんだ地元ならではの人間関係のよさを伝えていくなど、地域全体で対策を考えていく必要がある。

- (委員) 学校がある町内で歩道が狭くなっているところがあるため、広げるよう津山市に要請している。

道が狭く危険なため、津山東高生へ通行禁止のお願いをしている道がある。協力していただき助かっているが、通る生徒もいる。とくに朝の通学時間帯は、車の通行は許可車のみになっているが、抜け道として通る車もあり危険である。雨の日はとくに危ない。安全のためにも通行禁止を守ってもらうようお願いしたい。

(学校) 今後も指導していく。

岡山県立津山東高等学校 学校運営協議会 委員一覧（敬称略 五十音順）

岡山県立津山東高等学校 校長	安東 幸信
キャンパスショップラビット 代表取締役	門長 儀紘
岡山県立津山東高等学校 P T A会長	櫛田 晃稜
(株)マルイ 総務人事部次長	高橋 英資
津山市医師会理事 布上内科医院 院長	布上 朋和
美作大学/美作大学短期大学部 副学長	長谷川 勝一
津山市企画財政部みらいビジョン戦略室 室長	福田 倫文
特定非営利活動法人みんなの集落研究所 研究員	三村 雅彦
津山市教育委員会 企画参事	森 泰久
林田宮川町 町内会長	山名 敏和